



茅ヶ崎の無駄 密集地に生まれる個性の居場所



無駄の多い茅ヶ崎で、個性を出せない密集地で個性を出すために、自分の居場所となる建築を作る。

4BEB3120 吉野翔太

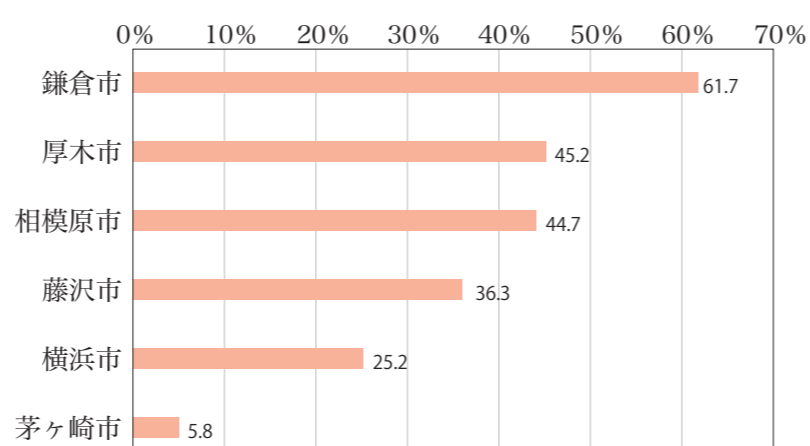
1. 個性を出せる居場所

居場所となる空間は、誰にでも必要であり、個性を出すことができる部屋のような空間だと感じ興味を持った。その場では、運動や読書などの様々な個性を出す行動が起きている。個性を出すことによって、日々の縛りから解放され、リフレッシュすることができる。そしてまた新たな気持ちで日々の生活を送ることができる開放の空間だと感じた。



2. 居場所の現状

住宅密集地では、住宅がびっしり建てられているので、個性を出すことのできる空間はあまりない。茅ヶ崎市では、図書館のような静かな居場所となる施設もあるが、全く利用されていない。反対にテニスコートなどの活発な居場所は利用者が多く、抽選に当たらないと利用できないほどである。



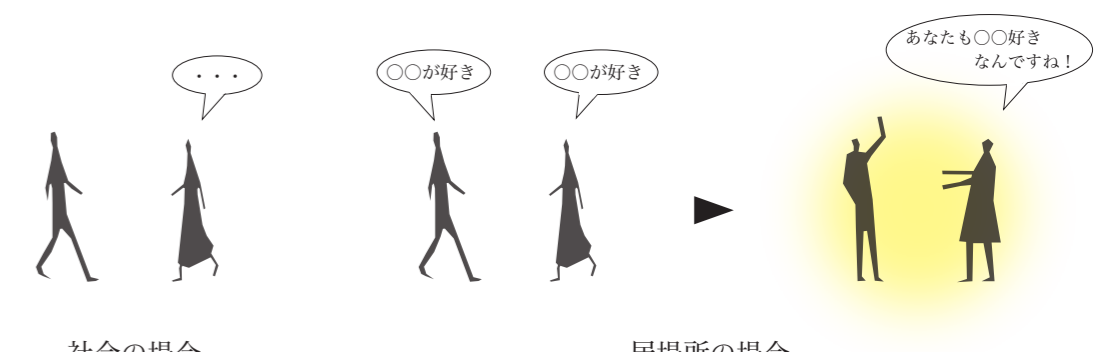
図書館の利用者登録率 (登録者 / 人口)

| 日時 | 09:00 | 11:00 | 13:00 |
|----------|-------|-------|-------|
| 12/01(金) | 10 | 4 | 6 |
| 12/02(土) | 4 | 4 | 4 |
| 12/03(日) | 26 | 35 | 29 |
| 12/04(月) | 4 | 4 | 4 |
| 12/05(火) | 16 | 7 | 3 |
| 12/06(水) | 4 | 4 | 4 |
| 12/07(木) | 23 | 10 | 2 |
| 12/08(金) | 4 | 4 | 4 |
| 12/09(土) | 11 | 19 | 11 |
| 12/10(日) | 4 | 4 | 4 |
| 12/11(月) | 16 | 14 | 4 |
| 12/12(火) | 4 | 4 | 4 |

テニスコートの抽選 (上: 応募数, 下: 当選数)

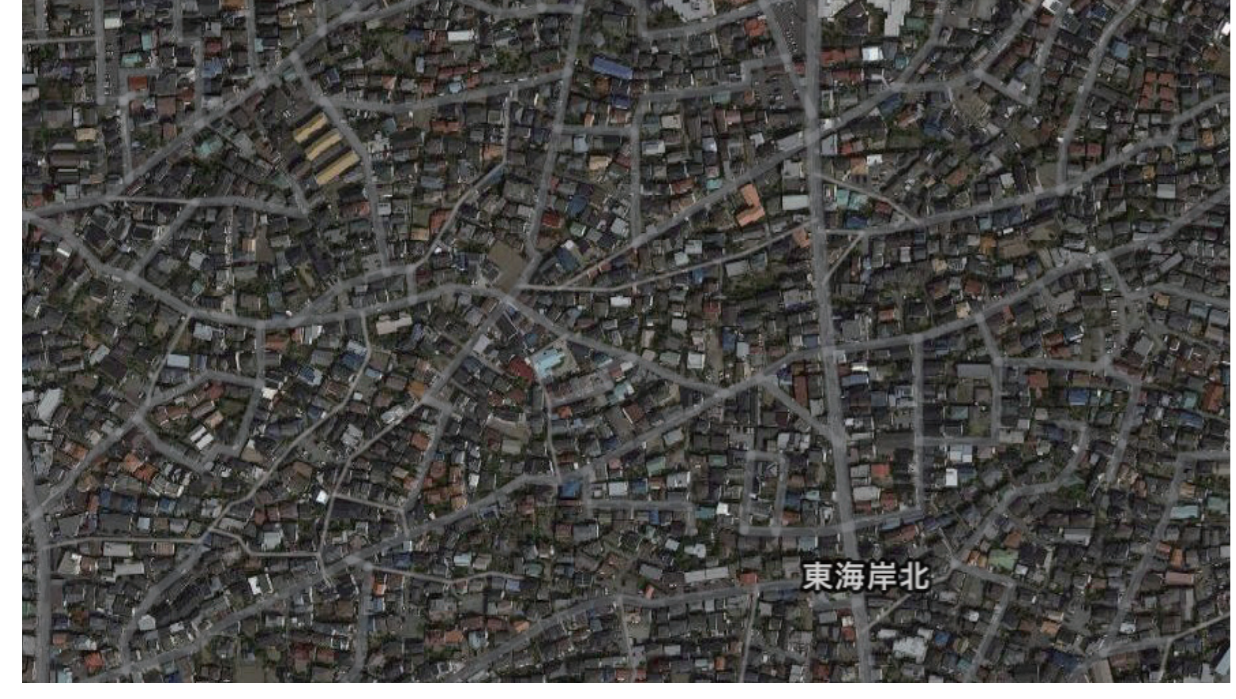
3. 新たなつながりを生み出せる居場所

居場所という空間は、共通の趣味であったり、同じ好みを持っている人が集まることが多い。共通の何かを持っているので、その場所では、人と人とのつながりが生まれやすい。密集地だからこそ、周辺を中心となり、人とつながれる地域に溶け込んだ居場所が必要ではないだろうか。



4. 個性を出せない密集地、茅ヶ崎

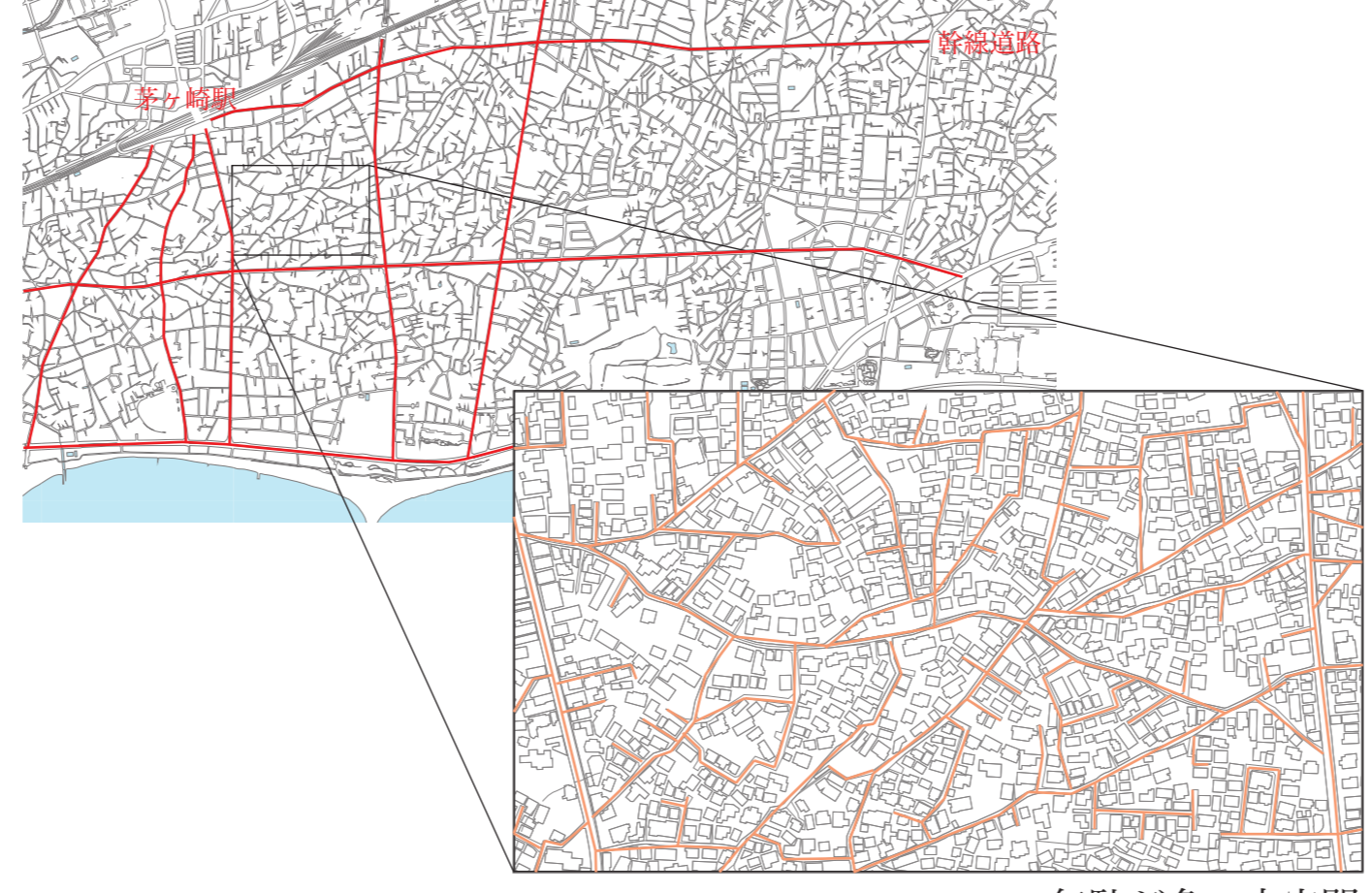
戦後、政府は東京を最優先に復興を始めたが、茅ヶ崎市も東京や横浜のベッドタウンとして、急速に復興をされ、都市化が進んだ。その結果、開発が計画的ではなく、自然発生的に行われたため、路地が多方向に交差し、迷路のようになってしまった。住民は大通りを利用するのではなく、迷路のような道を利用することが多いので、住民同士が会うことはあまりない。その結果、茅ヶ崎は人と出会えない街になってしまっている。さらに住宅がびっしりと並んでいるので、庭などの個性を出せる空間も存在していない。個性を出せるようなショップは点在しているが、あまり利用者が多くなく、住民は個性を出すことができていない。



密集した茅ヶ崎

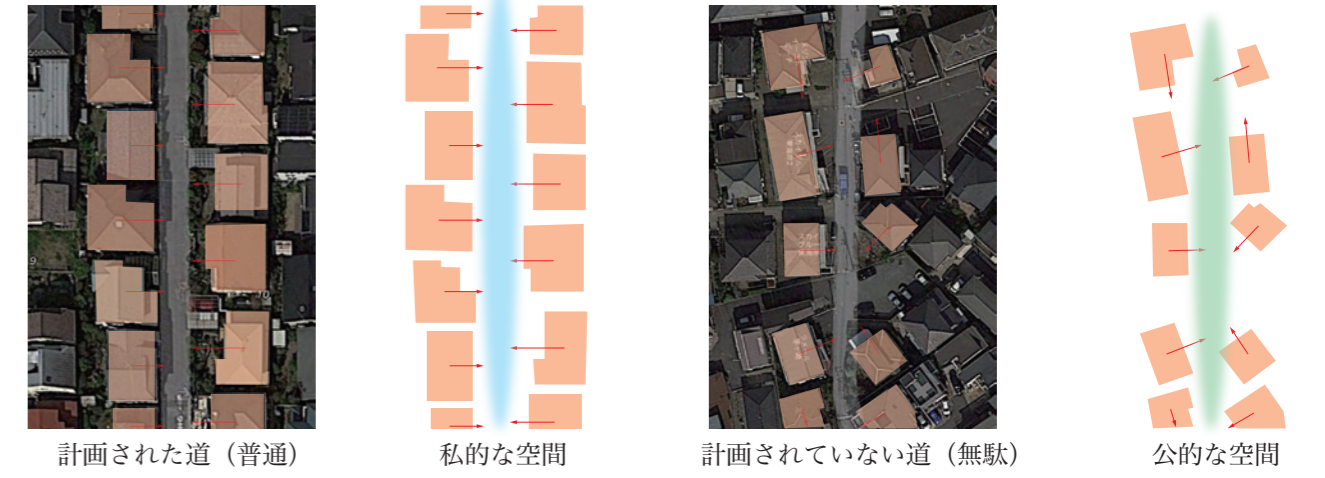
5. 無駄が多い内空間

茅ヶ崎は国道134号線、鉄砲通り、ラチエン通りなどの南北6つ東西3つの幹線道路により構成されている。その幹線道路に沿った地域は綺麗に並んでいて、あまり無駄がありません。しかし、幹線道路に囲まれた内空間は迷路のようになっており、様々な方向を向いている住宅や鋭角に交わってしまった道で生まれる使いづらい角の空間などの無駄がたくさんあります。



無駄が多い内空間

6. 無駄が生み出している環境



a. 住宅の方向性

普通：住宅の私的な雰囲気が道に漏れ出し、住宅に入るための道のように感じる。人は通りにくい。
無駄：道に対して住宅の正面が平行になっていないので、住宅の私的な雰囲気が漏れていない。そのため、この道は人に見られていないように感じ、通りやすくなっている。

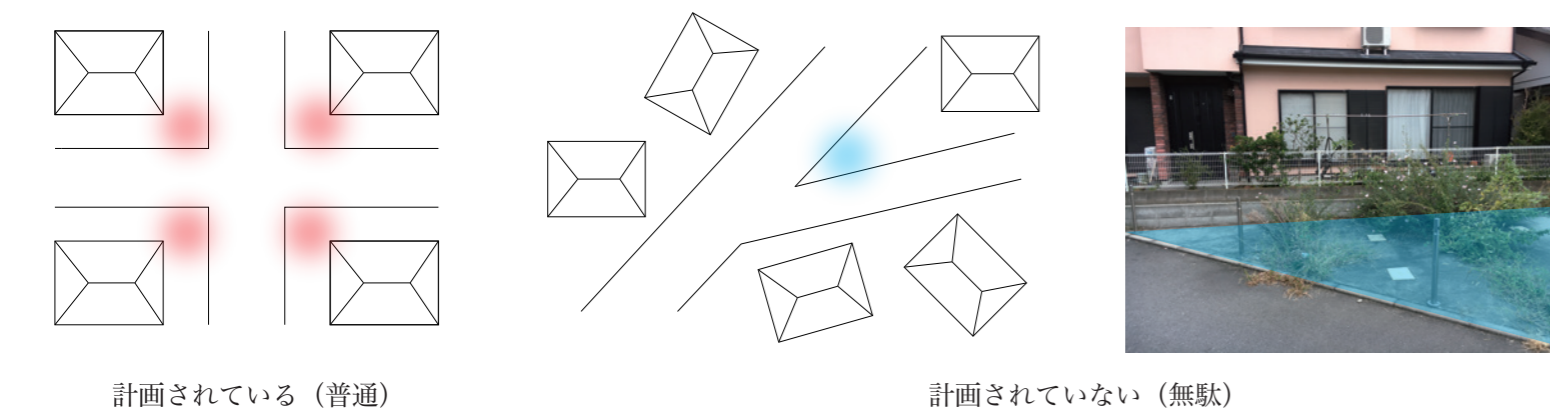


車が通れる道 (普通) 車が通れない道 (普通)

b. 車が通れない道

普通：一般的な道は車が通る。車に気がつけて進まないといけない。無駄：細すぎて明らかに車が通れない道がある。確実に車が通らないので、何も気にせず通ることができる。

7. 無駄を利用して密集地に居場所を生み出す



c. 角の空間

普通：計画された道は大体90°に交わっていることが多い。敷地全体を意味があるように利用することができる。
無駄：計画されていない道は鋭角に交わることが多々ある。鋭角で交わった角の部分はあまり意味をなさない空間になってしまっている。しかし、こういった空間があることによって、張り詰めた密集地にならず、緩やかな密集地になっている。



d. 道に飛び出ている緑

普通：手入れされていて、人為的だと感じる。人の手が及んでいて、誰かのナワバリという空間になる。無駄：人の手が加えられていない、自然にのびのびしている。誰のものでもなく、自由に利用している空間になっている。

茅ヶ崎の無駄は、幹線道路に囲まれた内部の空間に存在している。茅ヶ崎は点在するショップでつながりができているが、現在あまり利用されていない。これからの茅ヶ崎はショップでつながりを作るのではなく、内部空間の居場所で作るべきだと思う。無駄がいい方向に生きている茅ヶ崎の内部空間に、自分を表現できる居場所を作り、周りに住んでいる人々とつながることのできる場を提案する。

